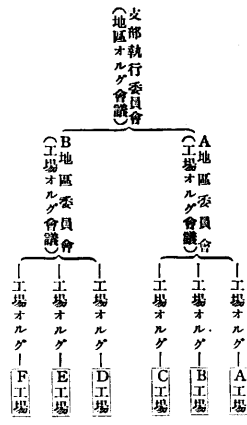


を結成する。(その地区へ派遣された支部執行委員並に既に分會の確立してある工場オルグを加へて)

(C)地区委員会(オルグ會議)——各工場オルグは、定期に會合して、互の狀態を報告し合ひ、戰術を協議し、支部の方針に従つて、各自の責任工場の組織化につとめる。
(ホ)工場オルグの配置と機關の構成を圖解すれば左の通りである。



(ハ)注意——支部執行委員會および地区委員會のほかに、特別のオルガナイザー會議を持つのでなく、支部執行委員會並に地区委員會が、そのまゝオルガナイザー會議としての役割を果すのである。組合の組織が擴大して來れば、地

區委員會所屬の專屬の地区オルグの數を増す必要がある。

D 最初の手がかりを如何にしてつかむか?

(イ)一定の工場を組織化することを命ぜられた工場オルガナイザーは、先づその工場の従業員を一人でも二人でも掴むことに努力を集中しなければならぬ。

(ロ)大抵の場合なら、現在組織されてゐる組合員の中に、『あの工場の誰れそれを知つてゐる』といふやうなものがある。そうした場合には、無論、その手づるをたどつて、先づその『誰れそれ』と近づきになることだ。

(ハ)さうした手づるが全くない場合にはどうするか? その場合には、一月かゝつても二月かゝつてもしかたがないから、最初の手がかりを得るまで執拗な活動をつづけなければならぬ。あるオルガナイザーは、目標工場の従業員の一番澤山住つてゐる地域の湯屋へ毎晩かよつて、とうとう近づきを得たといふことを言つてゐたが、それに似た方法はいくらでもある。例へば、夕方のひげ時に、工場の附近をぶらついてゐて、これはと思ふ労働者がゐたら、そ

の労働者のあとをつけていつて、住所をしらへ何かの機會を見つけて話しかけて懇意になる、といつたやうなことも可能だし、また、東京の某印刷工場のやうに、朝晩、従業員を自動車で或る地點まで送り迎へするやうなところでは、その停車場——もしくは停留場——の附近へ張り込んでゐて、電車の中で懇意になる、ことも可能ではない。
(ニ)或はまた、工場野球場や消費組合などのあるところではその方面から近づきになることも出来る。そのほかいろいろの方法が考へられると思ふがとにかく、執拗にやることが肝心だ。この執拗性がなかつたら、とても手がかりを得ることは出来なす。

(ホ)注意しなければならぬのは、最初に話しかける場合だ。折角、これと思つた相手が總同盟や總聯合あたりのガリ／＼の信者であつたり、會社の御用團體の手先きだつたりすることも有り得ることだから、そんな場合に、もし最初から組合の話なんか持ちかけたら、一べんに警戒されてしまつて、後の活動に大きな障害を來すやうになる。舊評議會の或るオルガナイザーは、『ピラを持ち込んで、向ふから喰ひついて來るやつはスパイと思へ』とまで極言して

ゐた。無論、それはど辨戒する必要はないが充分に用心してかゝることは肝要だ。で、最初に話かける場合には、先づ失業者かなんかやうな様子をして、『何としまして君の工場へ入ることは出来ないだらうか?』といつたやうなことから話しかければいい、さうすれば『いや、それどころか、この頃は首切りばかり多くなつて來てゐるんだからとても駄目だ』といふやうな具合に話は進んで行く。さうすれば、それからそれへと話しを進めて行つて工場内の大體の様子を知ることが出来るし、その相手の『ものゝ考へ方』や、それがどんな性格の人物であるかを知ることが出来るで、その人物が見込がありさうだつたら、益々懇意になるやうな方法を考へるし、もしとても駄目さうだつたら、さつさと見きりをつけて外の人物をさがすことだ。(なるべく青年労働者を掴め!)

(ヘ)とにかく、誰れか工場内の従業員の中に相當に懇意なものを作ることは、組織活動を開始する上は絶対に必要だ。工場内の様子がハッキリ判つてゐなければ、適切なアジビラ一つ書くことが出来ないのだから。